

2005/01/25

要求開発アライアンス設立および要求開発サミット開催のお知らせ

-ユーザー主導で本当に使えるシステムを作り出すために-

要求開発アライアンス設立準備会

要求開発アライアンス設立準備会は 2005 年 3 月 15 日に要求開発アライアンス (Requirement Development Alliance: ReDA) を設立することを決定し設立準備を開始しました。要求開発アライアンスはビジネスの改善活動をシステム開発にいかにつなげるかに注目し、利用者にとって真に役に立つ情報システムを作り上げることを目的とした団体です。

また、設立準備委員会は 3 月 15 日に要求管理アライアンス設立記念イベントである要求開発サミットを開催し、利用者にとって役に立つ情報システムをいかに作り上げるのか、そのためにユーザーが取るべき事は何かと言ったテーマで発表を行う予定です。

・ 経緯

要求開発アライアンスの前身は 2003 年にはじめた私的勉強会であるビジネスモデリング研究会を母体にしております。この研究会は当時オブジェクト指向のリーダー的存在であったメンバーによって設立され、メンバーは勉強会を通してユーザー自身が業務の可視化によって業務を把握する事が重要である、現状のシステム要求は曖昧でありそのままでは欲しいシステムは出来上がらない、要求はユーザー自身が正しく作り出すべきものである事の三点について認識を深めました。そしてユーザーによる業務の可視化、要求の開発手法策定を活動の基盤におき 2004 年末にその集大成である要求開発手法 **Openthology** を策定しました。勉強会を重ねるなか賛同者が増え現在では 87 名、金融業、製造業などの幅広い分野での企画担当者、IT 化担当者が個人として多数参加しております。

このように会としても大きくなった事、そして **Openthology** の啓蒙活動をさらに活発化させたいとの思いから今回、団体化設立へと至りました。

・ 要求開発アライアンスの目的

要求開発アライアンスは経営とシステムとを結ぶ役割である経営企画、情報企画担当者が主体の団体であり、これら担当者が IT 化において日々悩んでいるビジネスの改善活動をシステム開発につなげるためのノウハウの確立そして共有を目的としております。またそれを実現するため以下の活動を柱に据えます。

業務の見える化：業務と IT の構造と関係を見えるようにする。

要求開発手法：システム要求開発に関する手法を確立する。

ファシリテーション手法：情報化推進にかかわる経営層、現場、開発担当者などとの社内合意形成手法を確立する。

・設立スケジュール

1月25日：要求開発アライアンスホームページの公開。要求開発手法である **Openthology** をクリエイティブコモンズに則ったライセンス形態で公開。要求開発サミット概要を公開。

2月10日：要求開発サミットの参加受付。

3月15日：要求開発アライアンス設立総会開催。要求開発サミット開催。

・要求開発サミット

日程：3月15日 9時30分開演

会場：東京コンファレンスセンター・品川

概要：ユーザー主導による業務可視化、要求の開発について事例発表およびパネルディスカッションを通してその重要性、効果をさぐる。

参加申し込み：2月10日よりイベントページより申し込み受付開始。

イベントページ：<http://www.openthology.org/events/summit2005-spring.html>

・要求開発アライアンス設立準備会

要求開発アライアンス設立準備会メンバー

安井 昌男、平鍋 健児(永和システムマネジメント)、山岸 耕二、依田 智夫 (シナジー研究所)、細川 努 (日本総合研究所)、河野 正幸 (ウルシステムズ)、萩本 順三(豆蔵)

要求開発アライアンスホームページ：<http://www.openthology.org>

要求開発アライアンスに関するお問い合わせ：

株式会社豆蔵 経営戦略室 熊谷 <mailto:kkumagai@mamezou.com>